

は じ め に

鳥取県小学校体育研究会
会 長 山本 英世

鳥取県の体育科教育を牽引し、歴史と伝統を誇る鳥取県小学校体育研究会のまとめの時期となりました。平成28年度の各郡市の研究実践や提案・報告等、貴重な内容を寄稿いただき、ここに成果刊行「あゆみ」第61号を刊行することができました。刊行に関わっていただいた会員の先生方並びに役員の皆様に感謝しお礼申し上げます。

昨年10月には鳥取県中部地震が発生し、中部地区を中心に大きな被害がありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、各学校では避難所対応や給食の停止など学校生活にも大きな影響がありました。1日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

本年度は、隔年で開催している本研究会の大きな事業の一つである「第37回鳥取県小学校体育研究大会（八頭郡大会）」が、八頭町立隼小学校を会場として6月に開催されました。研究主題を「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開」～豊かなかかわりと学びを大切にしたい体育学習～とし、1・2年生合同の「水遊び」、3・4年生それぞれの「保健学習」、5・6年生合同の「ボール運動」は、小規模校のよさを生かしたきめ細やかな学習が展開され、子どもたち一人一人が生き生きと輝いて活動する姿に感動しました。また、分科会では、八頭郡小体研の貴重な取組の発表をいただき、熱心な協議ができました。会場の隼小学校をはじめ大会運営に関わっていただいた八頭郡小体研役員の皆様に改めてお礼申し上げます。そして県内より参加していただいた多くの先生方、ありがとうございました。

8月には恒例の夏季一泊研修会が水明荘、東郷小学校を会場に開催されました。本年度は、筑波大学名誉教授の村田芳子先生を久々に講師として迎え、「表現運動の特性と授業づくり～その気にさせる・本気になれる授業～」と題して、講義・実技の指導をいただきました。2日目には、県教育委員会体育保健課指導主事 生田優介 先生より、「鳥取の小学校体育に望むこと」と題して、鳥取県の子どもたちの体力・運動能力の調査結果をもとに講義をいただきました。また、中四国小学校体育研究大会（島根大会）での分科会発表のプレ発表も行い、講師の先生から指導・助言をいただきました。今年度は女性の先生方の参加も多く、大変有意義で盛り上がった研修会となりました。

10月には松江市の母衣小学校で第54回中四国小学校体育研究大会が、大会主題を「動いて気づく できていかす しまねっ子一動きを高め、運動の醍醐味を味わう体育学習～」として開催されました。本県からは40名弱の参加者があり、午後の提案発表では第2分科会「器械・器具（低）」で渡小学校の石田祐美先生に、第4分科会「ゲーム（低・中）」で小鴨小学校の磯尾和彦先生に、それぞれ提案発表をしていただきました。どちらも提案性のあるすばらしい実践発表で、研究協議も盛り上がり、まとめの指導助言にはいるところで中部地震が発生しました。松江市もかなり揺れ、その後の大会日程を全て取りやめるという記憶に残る大会となりました。

本年度は次期学習指導要領改訂の方向性が示されました。夏季一泊研修での村田名誉教授の講義の中で「アクティブラーニング、主体、共生、創造」などのキーワードがあり、問題解決学習と基礎・基本の習得が、「楽しいこと」「できること」「わかること」の融合につながると話されました。これらの考え方を追求しながら体育授業の「不易と流行」を大切にしていきたいと考えます。

終わりにりましたが、本研究会の取組にご指導・ご支援いただきました鳥取県教育委員会をはじめ、各市町村教育委員会、中四国小学校体育連盟、指導助言の先生方、関係の皆様は心より感謝申し上げます。本県体育科教育の充実・発展と本県の子どもたちの健やかな成長を願ってあいさついたします。